

研究班番号【 17 】
どうしてこうなった？！～言葉の意味の変化～

国語班: 吉岡 駿、河合 悟

Abstract

We conducted a study on the changes in the meaning of words. This time, we focused on the word “susamajin” and investigated the meaning of the word using literary works from each period from the Heian Period to the late Edo Period. As for the results of the research, we found that in the Heian period, the word was written as “冷まじ,” meaning “cold and boring,” but around the Edo period, the word was increasingly used to mean “physically cold,” indicating a change from mental “cold” to physical “cold. From this, we considered that as time went by, the meaning readable from the character style tended to replace the original meaning. Based on this, when we look at the modern language, we find that the word “hachimonoso” is shifting from its original meaning of “a person who has never done it before” to “a bold person,” which seems to fit the discussion in this study. Therefore, the conclusion of this study is that the original meaning of a word fades with the passage of time, and the meaning of the letter itself is often used as the meaning of the word. However, since the sample size for this study was very small, it will be important to gather more information to confirm this result.

要約

我々は言葉の意味の変遷についての研究を行った。今回は「すさまじ」という語に焦点を当て、平安時代から江戸時代後期の各時代の文学作品を用いてその語がどのような意味で使われているかを調査した。研究結果については、平安時代では「冷まじ」と表記されており、「興が冷める、つまらない」という意味で使われていたが、江戸時代頃になると「身体的に寒い」という意味で使われることが増え、精神的な「寒い」から身体的な「寒い」に変化したことがわかった。このことから、時代が進むにつれて、字体から読み取れる意味が本来の意味と成り代わっている傾向があると考察した。このことを踏まえて現代語に注目すると、「破天荒」という語が本来の意味である「誰がやったことがないさま」から「大胆なさま」という意味に移り変わりつつあることがわかり、今回の研究の考察に当てはまっていると考えられる。よって今回の結論は、言葉は時代の流れによって本来の意味合いが薄まっていき、文字そのものの意味がその言葉の意味として使われることが多くなるということが読み取れたが、今回の研究に関してはサンプルが非常に少ないためこの結果を確定させていくにはより多くの情報を集めることが重要になってくるとかんがえられる。

1. はじめに

本研究では言葉の意味が時代によってどのように変化していったのかを調査し、またこれから現在使われている言葉がどのように変化していくかを予測することが目的である。語学文化が発展し、文学作品が作られだした平安時代初期から現代に至るまで日本語は絶えず変化を続けてきた。その中で形、意味の両方が変わっているものもあれば片方しか変化していないものもある。私達は形はそのままに意味のみが変化した言葉に焦点を当て、言葉の意味が時代の流れの中でどのように変化していったのかを様々な文献を用いて調査した。

2. 研究手法

本研究では「すさまじ」という語の意味の変化に焦点を当て、調査した。
《実験1》古語辞典やインターネットなどを活用して「すさまじ」が用いられている文学作品の中の「すさまじ」の意味を各時代ごとにリストアップした後、作中でどのような意味で使われているのかを調べ、時代ごとの意味の変遷を可視化させた。ここから古語から現代語に変化する際の方向性を読み取る。
《実験2》現代語において、誤用されることが多い言葉を調査し、本来の意味からどのように変化しているかを読み取る。このとき、調査する語には制限は設けないものとする。
《実験3》先述の実験1、2の結果から古語から現代語、また現在変化しつつある言葉の両方の変化の方向性を照らし合わせ、共通点を探す。

3. 結果

《実験1》

研究結果を図示すると、次のようになる。

- ・平安初期～後期...興ざめする、つまらない
- ・鎌倉初期...寒々とした、恐ろしくものすごい
- ・室町後期...寒々とした、恐ろしくすさまじい
- ・安土桃山...程度が甚だしい、ひどい
- ・江戸後期...寒い、呆れるほどひどい

このように、時代が進むごとに「興ざめする、つまらない」のようないわゆる精神的な「冷める」という意味合いから、「寒い」といった身体的な寒さを含む意味合いに変わっていったと考えられる。ここから、時代が進むごとに、本来の意味から「冷　　じ」という字体からそのまま意味を読み取られ、使われていると考えられる。

《実験2》

今回は、「破天荒」と「ごねる」という2つの現代語を対象として調査を行った。

「破天荒」という言葉では、本来の意味は「誰もやったことがないさま」という意味

であるが、近年では「大胆な様」という意味で使われていることが多く、これは言葉に含まれている漢字である「破」と「荒」の二文字が読者に荒々しい印象を与えていると考えられる。また、「ごねる」という現代語では、本来の意味は「死ぬ」という意味であるが、近年では「駄々をこねる」という意味で使われているが、これは「ごねる」と「駄々をこねる」という言葉の字体が類似していることから本来の意味ではなく、現代でよく使われている意味に変化していると考えられる。

《実験3》

上記の実験結果を照らし合わせると、共通点は、言葉の意味の変化は時代の進行とともに本来の意味から、字体から連想される意味に変化している点であるとわかる。

4. 考察

実験結果より、言葉の意味の変化は古語が使われていた時代と現代を比べてもほとんど差異はなく、本来の意味から時代が進むごとに字体から連想されるイメージをそのまま意味として使用し、それが、新たな言葉の意味となるか、元の意味を消し去り置き換わってしまうという変化が見られた。この変化は文学作品の発展だけによるものではなく、民衆への文学の普及や時代ごとの言語における教育水準の違いといった歴史的背景も関係するのではないかと考えられる。

5. 結論

言葉の意味の変化は昔と現代とで大きな違いはなかったと結果を出したが、今回の研究では使用したデータがあまりにも少ないため、今後より多くのデータを収集し法則性の根拠をより強固なものにし、これからの言葉の意味の変化の予想などに役立てていきたい。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

- ・本明 縁 「うつくし」の歴史的意味変遷について
- ・宮腰賢 石井正己 小野勝 旺文社 全訳古語辞典(1990)
- ・林巨樹 安藤千鶴子 大修館書店 新全訳古語辞典(2017)
- ・鈴木一雄 外山映次 伊藤博 小池清治 三省堂 全訳読解古語辞典(2007)
- ・金田一春彦 小久保崇明 学研 全訳古語辞典(2003)
- ・金田一春彦 三省堂 新明解古語辞典(1974)
- ・中村正幸 岡見正雄 阪倉篤義 KADOKAWA 角川古語大辞典(1982)